

健康談話会のおさらい

直ぐそこまで来ている! **新型インフルエンザ**

その②



## ③ パンデミック(世界的大流行)の脅威!

人類は前世紀、新型インフルエンザの大流行に 3 度遭遇しています。

- ① スペインかぜ(1918年)・・・世界で 2300 万人以上が死亡。日本でもわずか 4 ヶ月で 26 万人が死亡。
- ② アジアかぜ(1957年)・・・アメリカで 7 万人が死亡。
- ③ 香港かぜ(1968年)・・・現在も流行を繰り返している。

前号でも記載しましたように、新型インフルエンザウイルスが鳥から人へではなく、**人から人へ感染**し始めると、**パンデミック(世界的大流行)**が起きてしまいます。

海外では人から人への感染を疑う症例も既に報告されています。

一昨年冬、トルコでのインフルエンザ死亡患者から採取したウイルスに変異があると WHO (世界保健機関) が報告しています。ウイルス感染は鳥や人の細胞表面にある「受容体」と呼ばれるたんぱく質に付着するのが出発点となりますが、この変異ウイルスは鳥よりも人のそれに付着しやすくなっていました。

パンデミックまで、もはや秒読み段階といっても過言ではありません。



パンデミック発生後は、数週間で世界中に拡散し、全世界で 5 億～6 億人が死亡するとの試算が出ています。日本でも約 2,500 万人(国民の 1/4 弱)が発病し、死者は 64 万人以上と推定されています。

## ④ パンデミック対策

突然変異で出現する新型ウイルスに対して人間は全く免疫力(抵抗力)を持っておらず、感染すると有効な治療法が無く生命に係わる事態となります。

現在最も期待されているのが、**プレパンデミック(大流行前) ワクチン**及び**パンデミックワクチン(H5N1 型ウイルス株で作成)**の予防接種。

米国ではこのワクチンを増産すべく急ピッチで製造工場を建設し、自動車に乗ったままでも予防接種が受けられるよう準備し、またワクチン接種の優先順位についても国民に問いかけ、当初高齢者を最優先させていたものが、将来ある子どもにと世論で小児が優先化されるなど、とても対策が進んでいます。

国内では政府備蓄は本年 8 月時点で 3000 万人分(人口の約 25%)とまだまだ不十分です。急増する感染者の受け入れ体制も同様です。

厚生労働省は、新型インフルエンザワクチンの接種対象者、接種優先順位、および接種実施法(接種場所、人員等)等、ワクチンの接種体制について記述し、国や地方自治体、医療従事者、ワクチンメーカーなどが、新型インフルエンザの警報フェーズ 4(ヒトヒト感染の証拠がある段階)以降の状況(現在はフェーズ 3)に

確実に対応できるようにすることを目的とし

て、「**新型インフルエンザワクチン接種に関するガイドライン**」を公表しています。詳しくは厚生労働省のホームページ [www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou04](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou04) をご覧ください。

従来からある**抗インフルエンザウイルス薬(タミフル・リレンザ)**も感染早期に服用することでウイルスの新たな拡散を阻害する効果があり、国内ではタミフル 2,800 万人分(人口の約 23%) リレンザ 135 万人分備蓄されています。

10 月 16 日、本年度の補正予算が成立し、厚生労働省分は 3498 億円となり、新型インフルエンザ対策強化として、抗インフルエンザウイルス薬「タミフル」「リレンザ」、ワクチン備蓄などに 491 億円を確保しています。

## ⑤ 日常生活レベルで準備するもの・注意点

- インフルエンザは飛沫感染(患者からの咳や痰を吸い込む)しますので、出来るだけ**外出しない**こと。
- 外出の際は出来るだけ**マスク**をして下さい。マスクはろ過率の高いもの(出来れば N-95 以上。現在最も効果が高いものは N-100)を購入しておきましょう。咳をする場合はティッシュ等で口を覆いましょう。(咳エチケット)
- 帰宅時は、**うがい・手洗い**を遂行して下さい。
- 食料品や日常生活用品**を最低 2 週間分は備蓄しておきましょう。
- 今秋もインフルエンザワクチンの予防接種**を実施しますので、出来るだけ受け、先ずは通常のインフルエンザに対する免疫力を付けておき、パンデミックに備えるようにしましょう。

## ⑥ もし、インフルエンザ症状が出たら

パンデミック後に、急激な高熱・寒気・全身倦怠・関節痛等のインフルエンザ症状がみられた場合、都道府県指定(三次地区は市立三次中央病院)の「**発熱外来**」を受診していただくことになります。

速報 **タミフル効かない 今冬の拡大警戒!!**

【読売新聞 2008.10.21 より】

治療薬「タミフル」が効かない**タミフル耐性インフルエンザウイルス**が昨冬、鳥取県で 30%以上という高頻度で見つかっていることが、10 月 20 日、国立感染症研究所の緊急検査で判明した。今冬以降、全国的に広がっていく可能性もあり、同研究所では引き続き監視が必要とみている。(新型ウイルスのことではありません。)

タミフル耐性ウイルスは昨年 11 月以降、欧州を中心に世界中に流行が拡大。ノルウェーの 67%をはじめ、欧州諸国全体で 20%以上を占め、南アフリカなどではソ連型ウイルスのほぼすべてが耐性ウイルスになっていた。鳥取県の耐性ウイルスは主に小学生から分離。

今後、ソ連型ウイルスが流行した際には、タミフル投与が必ずしも有効な治療でなくなる可能性もある。

同研究所の小田切孝人・インフルエンザウイルス室長は「全国的にはまだ割合は小さいが、今後の推移に注意が必要だ」と話している。